



日本を、取り戻す。

茂木敏充国会通信

2013年 夏号

■国会事務所／千代田区永田町2-1-2 第2議員会館1011号室 TEL 03(3508)1011
 ■足利事務所／足利市伊勢町4丁目14-6 TEL 0284(43)3050
 ■栃木事務所／栃木市大町22-7 MTビル1階 TEL 0282(24)4776
 ■佐野事務所／佐野市堀米町608-8 オフィス堀米2階F室 TEL 0283(21)5350

■ホームページ：http://www.motegi.gr.jp
 ■E-mail：toshimitsu@motegi.gr.jp
 ■発行所：自由民主党栃木県第5選挙区支部



公募で7月の参院選・栃木選挙区自民党候補者に決まった たかはし克法氏と

経済産業大臣 衆議院議員 **茂木 敏 充**

経済産業大臣に就任して

昨年末の衆議院総選挙では、地元の皆様からの絶大なるご支援を賜り大きな得票で七期目の連続当選を果たすことができました。また、安倍内閣発足に伴い経済産業大臣を拝命致しました。これも皆様からの日頃のご支援の賜物と心より御礼申し上げます。

国民が新政権に期待するのは、まず何より経済の再生と景気の回復です。長引くデフレからの脱却や成長戦略の策定など経済産業省が関わるものが多く、責任の重さを感じています。

経済産業大臣が担当する分野は、エネルギー・原発問題、成長戦略、通商交渉とTPP、国際展開戦略、製造業の復活、さらに中小企業対策など、幅広く一つ一つが大変重要なものばかり。いくら時間があっても足りないぐらいの分野に広がっていますが、皆様のご期待にお応えするべく全力で取り組んでいるところです。

景気の回復、経済の再生への戦略

安倍政権が発足して以来、株価は大幅に上昇、円高も是正されています。衆議院が解散となった昨年11月半ばから株価は6割以上上昇し、4年11ヶ月ぶりに1万4500円台まで回復しました。為替も対ドルで2割以上円安となり、4年1ヶ月ぶりに100円台をつけました。日本企業の輸出競争力も大幅に改善しています。

また、デフレ脱却に向けた期待が高まる中、自動車など企業の投資にも火がつきつつあり、様々な産業で賃金引き上げの動きがあります。低迷していた個人所得、個人消費にも増加傾向が見え始めています。

アベノミクスは、「大胆な金融緩和」、「機動的な財政政策」、「民間投資を喚起する成長戦略」という「三本の矢」を同時に力強く射込むことで、日本経済の再生を目指すものです。「アベノミクス」は世界からも注目されています。

(P2へつづく)

私が出席したスイスのダボス会議や、モスクワで開催されたG20での各国の反応を見ても、「アベノミクス」は国際的にも認知されていることが分かります。

これまで世界でも「レーガノミクス」や先日亡くなられた英国のサッチャー元首相の「サッチャリズム」くらいしか経済政策が人の名前と呼ばれたものはありませんでした。それだけ新政権の経済政策は世界からの期待も大きいということです。

三本の矢を射込む

一本目の矢「大胆な金融緩和」については、既に黒田新日銀総裁の下で、物価目標2%、達成時期2年、マネタリーベース2倍、国債買入2倍と、まさにこれまでと次元の異なる大胆な金融緩和策が採られ、デフレからの早期脱却という目標は“射程圏内”に入ってきました。

二本目の矢「機動的な財政政策」についても、景気の底割れを回避し景気の反転を図るため、10兆円を超える補正予算と平成25年度本予算の「切れ目ない対策」がまさに進行中です。これを持続的な個人消費拡大や民需主導の投資拡大につなげ、日本経済の「将来への期待」を「ゆるぎない確信」に変えていくことが重要です。そのためにも、三本目の矢「成長戦略」をさらに強く打ち出していく必要があります。

三本目の矢「成長戦略」では、今後「3つの取組み」を強力に推し進めていきます。

成長戦略3つの取組み

第一の取組は、「日本経済の新たなフロンティア」を見出していくこと。こうしたフロンティアは、高齢化社会やエネルギー制約、老朽化するインフラなど、課題先進国としての日本が直面する課題を克服することでもあります。これにより「健康長寿世界一」、「グリーンかつ経済的なエネルギー需給の実現」といった新しい経済社会を構築していきます。

例えばエネルギー分野では、再生可能エネルギーを今後大きく拡大していくために、天候の影響を受けやすい太陽光、風力発電で、蓄電池の技術を活用していかなければなりません。この蓄電池技術では、日本は世界最高水準で



3/23 関西大学で1200人の聴衆を前にエネルギー問題の講演

あり、2020年には20兆円市場と言われるこの分野で日本が世界市場の50%のシェアを獲得するという高い目標を掲げています。

第二の取組は、日本経済の「新陳代謝の促進」です。過当競争の国内産業構造や硬直化した会社組織を抜本的に見直し、経営資源の最大活用を進めます。これにより、開廃業率を逆転し米英レベル(10%台)にまで高め、グローバルトップ企業を数多く創出します。同時に、企業の収益性を世界水準まで引き上げ、企業活動の拡大・高度化を雇用や所得の拡大につなげます。このため、今後5年間でこうした課題に取り組む「緊急構造改革期間」と位置づけ、集中的な取組を進めていきます。

第三の取組は、海外の成長の取り込みです。特にアジア太平洋地域の成長を取り込んでいくことが、これからの日本の成長には必要不可欠です。3月15日には安倍総理がTPP交渉への参加を決断し、4月20日にはAPEC閣僚会合に出席していた私に対し、日本の交渉参加への支持が伝えられました。

また、今年から交渉がスタートすることとなった、日中韓FTA、日EU・EPAなど様々な経済連携協定を積極的に進めていきます。TPPに対する不安や期待も大きいと思いますが、日本の「農業」「食」や「国民皆保険制度」「主権・国柄」をしっかり守りつつ、今後の交渉で国益にかなう大きな成果を出していきたいと思っています。

力強い政治、そして日本再生に向けて

かつて日本は「経済は一流、政治は三流」と言われました。ところがバブル崩壊以降、経済も二流になりつつあります。もう一度、強い経済を取り戻すためには、強い政治が必要です。グローバル化する経済の流れを正しく読み取り、その中で日本の国際競争力を回復・強化する戦略を打ち出す力を持った政治を我々が作り出すということです。「自然現象と過去は変えることは出来ない。しかし、社会と未来は我々の力で変えることが出来る。」そんな思いで日本の再生にこれからも全力で取り組んでいきます。



4/20 インドネシアにてTPP閣僚会合後、TPP全交渉参加国の代表と

衆院選で自民党が政権奪還



衆院選 自民党勝利の瞬間

昨年12月に行われた衆議院総選挙で、自民党は294議席を獲得して政権に復帰致しました。栃木県内では皆さまからのご支援により、1区から5区全ての選挙区で自民党が議席を獲得(表参照)することができました。

しかし、今回の勝利は自民党が国民の皆さまからの信頼を全面的に取り戻した、ということではありません。3年4ヶ月にわたる民主党政権が内政・外交で迷走した結果、我が国は長引くデフレや円高で経済が弱体化し、また外国との対立、摩擦で国民の安全・安心が脅かされました。その失望の3年余に終止符を打つべく国民の皆さまが真剣に判断した結果、今回の政権奪還が成し遂げられたのだと思います。

我々は、政治に対して未だ厳しい視線が注がれ続けているという緊張感を胸に、政権政党とし

●●●栃木選挙区 1区～5区の自民党当選者●●●

小選挙区	候補者	期数	得票数	得票率
1 区	船田 元	10期	100,133	46.63%
2 区	西川 公也	5期	55,853	38.64%
3 区	築 和生	1期	48,912	35.08%
4 区	佐藤 勉	6期	109,762	51.13%
5 区			101,533	67.31%
足利市	茂木 敏充	7期	45,239	68.27%
栃木市			22,338	67.86%
佐野市			33,956	65.71%



12/16 7期目の当選を果たして

て誇りある日本を立て直す覚悟で経済を、教育を、外交を再生し、皆さまが安心して暮らせる日本を必ず取り戻します。

7月の参院選公募、たかはし克法氏に決定!!

自民党は、開かれた候補者選考を行うため前回の参院選に続き、今年7月に行われる参院選でも候補者の公募制を導入しました。栃木県内でも昨年より公募を行い、44名の応募がありました。書類選考、予備選挙を経て、3月2日、前高根沢町長の「たかはし克法」氏(55歳)が候補者に決定しました。

「たかはし克法」氏は県議そして高根沢町長を4期歴任し、確かな実績と決断力、実行力を持っているだけでなく、常に国民の目線に立って汗をかき、地方から新しい日本を作っていこうとする熱い情熱があります。そして、日本の現実を冷静に見つめ、私たちがどこへ向かっていくべきなのか、未来に対して地に足が着いたしっかりとしたビジョンを持った素晴らしい政治家です。

参議院選＝日本を取り戻す大切な選挙

日本が抱える様々な課題を解決し、前に進む



3/2 参院選栃木選挙区の候補者に決まった、たかはし克法氏と記者会見

ためには安定した政権を作る必要があります。今夏の参議院選挙は、参議院国会のねじれを解消し、安定した政治を進めるため大変重要な選挙です。間近に迫った参院選で必ず勝利し、責任ある政治、信頼できる政治、そして安定した政治を実現して参ります。そしてこの国難を乗り越え、国民が明るい未来を思い描ける日本を取り戻します。

参議院の勝敗のカギは、栃木県のような1人区にあります。自民党栃木県連は丸丸となって「たかはし克法」氏の必勝に向け全力で参院選に臨みます。

自民党栃木県連へのアクセスは <http://www.tochigi-jimin.com>

2013年

国内・海外出張

国内出張

- 1/16 福島 Jヴィレッジ視察
 1/23 大阪・兵庫 三菱電機(株)スマートグリッド実証実験施設、ハードロック工業(株)、(株)ジーンデザイン視察
 2/17 福島 原子力災害からの福島復興再生協議会出席



1/16 福島復興本部にて激励

- 2/22 都内 東京ゲートブリッジ視察
 3/23 大阪 日産大阪販売所視察、関西大学シンポジウム出席
 4/ 3 神奈川 電源開発(株)磯子火力発電所視察
 4/28 幕張 ニコニコ超会議2
 5/31~6/3 横浜 TICADV(第5回アフリカ開発会議)

海外出張

- 1/25~27 スイス(世界経済フォーラムWTO非公式閣僚会合)
 【面会】1/26 カーク米国USTR通商代表
 2/8~11 UAE・サウジアラビア
 【面会】サウジアラビア
 2/ 9 ジャーセル経済企画大臣
 2/ 9 タウフィーク商工大臣
 UAE
 2/10 スウェーディ アブダビ国営石油会社総裁
 2/10 マンスール 副首相
 2/10 スウェーディ 経済開発庁長官
 4/20~22 インドネシア(APEC貿易担当大臣会合)
 【面会】4/20 エマーソン 豪州 貿易大臣
 4/21 尹相直 韓国 産業通商資源部長官
 4/21 マランティス 米国USTR通商代表代行
 4/29~5/6 米国・コロンビア・ブラジル
 【面会】コロンビア
 4/30 サントス 大統領
 4/30 グラナドス 商工観光大臣
 ブラジル
 5/ 2 ピメンテル 開発商工大臣
 5/ 2 ロボン 鉱業エネルギー大臣
 アメリカ
 5/ 3 ポネマン エネルギー長官代行
 5/ 3 ドナヒュー 全米商工会議所会頭
 5/ 3 クルーガー CEA委員長

海外要人との面会

- 1/15 ジョン・ルース 駐日米国大使
 1/17 リサ・マコウスキー 米国 上院議員
 (上院エネルギー天然資源委員会筆頭委員)
 1/30 フランシス・ガリ WIPO事務局長
 2/12 カピル・シバル インド 通信・IT大臣
 2/12 アティーヤ カタール 行政監督庁長官
 2/19 イセケシェフ カザフスタン 副首相 兼 産業・新技術大臣
 2/27 マリア・ファンデル・フーフェン 国際エネルギー機関(IEA)事務局長
 3/13 ノヴァク ロシア エネルギー大臣
 3/13 ガニエフ ウズベキスタン 対外経済関係・投資・貿易大臣
 3/14 ドミンゴ フィリピン 貿易産業長官
 3/15 ラージャパクサ スリランカ 大統領
 3/21 サルマン バーレーン 皇太子
 3/25 ボブ・コーカー 米国 上院議員(外交委員会筆頭委員)
 3/25 カレル・デフクト 欧州委員(貿易担当)



4/30 コロンビアにてサントス大統領との会談

- 3/27 ユースフィ アルジェリア エネルギー・鉱業大臣
 3/27 パウロ・ポルトス ポルトガル 外務大臣
 4/ 2 チダンバラム インド 財務大臣
 4/ 9 グアハルド メキシコ 経済大臣
 4/11 ファスト カナダ 国際貿易大臣
 4/24 グローサー ニュージーランド 貿易大臣

経済産業大臣としての

主なテレビ出演

- 1月 6日 NHK「日曜討論」
 1月12日 BS朝日「激論!クロスファイア」
 1月13日 フジテレビ「新報道2001」
 1月14日 TBS「ひるおび」
 1月19日 読売テレビ「ウェークアップ!ぶらす」
 1月21日 BS朝日「ごごいち!ニュースキャッチ」
 2月12日 テレビ朝日 モーニングバード 特集「そもそも総研・たまベティア」
 2月16日 NHKスペシャル「日本新生 どうするエネルギー政策」
 2月20日 BSフジ「プライムニュース」
 3月 9日 テレビ東京「田勢康弘の週刊ニュース新書」
 3月17日 NHK「日曜討論」
 3月22日 BSフジ「クリエイティブインダストリア」
 3月23日 日本テレビ「NewsEvery(蓄電池特集)」
 3月23日 日本テレビ「ウェークアップ!ぶらす」Live in 関西大学2013



12/27 テレビ東京「ワールドビジネスサテライトスペシャル」

- 4月11日 BSフジ「プライムニュース」
 4月21日 フジテレビ「ほこ×たて」
 4月23日 BSジャパン「日経プラス10」
 5月12日 NHKスペシャル「メイドインジャパン 逆襲のシナリオ」

茂木敏充プロフィール

PROFILE

- 1955年10月7日 栃木県足利市生まれ(57歳)
足利高校、東京大学卒業、ハーバード大学大学院修了
- 1993年 7月 第40回衆議院選挙に初立候補しトップ当選
(以来、栃木5区で7期連続当選)
- 1999年10月 通商産業政務次官
- 2002年10月 外務副大臣

- 2003年 9月 国務大臣(沖縄北方、科学技術、IT担当)
- 2008年 8月 金融・行政改革担当大臣
- 2009年 9月 自民党栃木県連会長
- 2010年 9月 自民党広報本部長
- 2011年 9月 自民党政務調査会長
- 2012年12月 経済産業大臣